

令和2年度 府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階 **実施段階**）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p>	<p><b>（成果）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全職員による一致した指導により生徒が規範意識を重んじ、自律的で調和のとれた高校生活を送っている。</li> <li>2 実践的な教育活動により、全国の水産・海洋高校の学習・研究活動をリードしている。</li> <li>3 進路について、就職では関連分野を中心に18年連続100%内定、進学では国公立大学（27年連続）をはじめ幅広い分野の大学・専門学校等に合格した。</li> <li>4 生徒の多くが意欲的に資格取得に取り組み、レベルの高い資格を保持する生徒が増えている。</li> <li>5 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実に向けている。その中から、全国高校総体や国体等に出場する生徒を輩出している。</li> <li>6 ボランティア活動への参加が日常的になり、地域創生に資するとともに生徒の自尊感情の醸成につながっている。</li> <li>7 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）並びにコラボ推進プログラムに京都府北部の児童・生徒が多数参加し、水産業や海洋産業への理解を深めた。</li> <li>8 読書の定着と図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅が広がっている。</li> </ol> <p><b>（課題）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体的な生活の促進と公共心の育成</li> <li>2 個に応じた指導の推進と指導状況の共有</li> <li>3 家庭・下宿・寮における好ましい生活の支援</li> <li>4 地域創生に資する人材育成</li> <li>5 ICT利活用とスマートスクール推進事業指定に向けての準備</li> <li>6 広報活動の充実と生徒募集の強化</li> </ol>	<p><b>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <b>学力向上と希望進路の実現</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。</li> <li>(2) 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を促進する。</li> <li>(3) 地域人材の活用に努め、地域創生に資する。</li> <li>(4) 読書活動の時間確保を含め、机に向かう時間を大切にさせる。</li> </ol> </li> <li>2 <b>基本的生活習慣の定着</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。</li> <li>(2) 日常の学校生活を通じて、適切に行動できる生徒を育てる。</li> </ol> </li> <li>3 <b>心の育成</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。</li> <li>(2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育むとともに主体的な行動を促す。</li> </ol> </li> <li>4 <b>さらなる高みを目指す専門教育の推進</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 関連産業や外部機関との連携を推進するとともに、先進的な取組に関心を持たせ、レベルの高い専門教育を目指す。</li> <li>(2) 生徒それぞれの「あこがれ」を大切に、想像力を育てる。</li> </ol> </li> <li>5 <b>安心・安全の徹底</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 相互のちがいを認め合い、共に学ぶ仲間づくりを進める。</li> <li>(2) 常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認を怠らない。</li> <li>(3) 生活全般において順法精神を培い、安全第一を徹底する。</li> </ol> </li> <li>6 <b>広報活動の充実と家庭・地域との連携強化</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門学科の取組を中心とする積極的な広報に努め、本校の魅力をアピールする。</li> <li>(2) 中学生の目線で本校に対する理解が深まり、共感が広がるような広報の在り方を研究する。</li> </ol> </li> <li>7 <b>働き方改革の推進とワーク＆ライフバランスの調整</b> <p>教職員それぞれが仕事と生活について見直し、望ましい時間配分を考え、教師としての資質向上と生活改善に努める。</p> </li> </ol>

令和2年度 府立海洋高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階) <各領域>

令和3年3月

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	個に応じた指導の推進と指導状況の共有等を通じ、教育活動の充実を図る。	・学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検・共有等することにより、高い達成状況を実現する。	B	B		・ A 4、B 13、C 5、D 2 A+Bの割合：71% 多くの活動で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行事の変更等を余儀なくされた。
	本校の魅力を積極的に発信するとともに、志願者数の増大を図る。	・学校説明会等で、特色ある教育活動・専門教育の魅力を中学生及びその保護者に発信することにより、持続的な観点での志願者数の増加を図る。	A	A	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの行事が中止等を余儀なくされ、広報回数は減少している。
	家庭・下宿・寮における好ましい生活の支援を図る。	・寮、下宿担当者及び教職員間の連携を密にし、諸課題の共有と解決に努める。	B	B		・学校評価アンケートの結果、寮支援に係る項の回答数に対する「よく当てはまる」「やや当てはまる」の回答数の割合は、89%（昨年とほぼ同じ）、下宿については、同87%（昨年84%）であった。引き続き、連携を図り、理解を得られるようにしなければならない。
総務企画部	事務手続きをミスなく進める。また、地域に本校の教育活動を広く発信することで、京都府の水産業の担い手となる中学生に本校の魅力を伝え、生徒募集に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスによる臨時休業中の本校生徒のストレスを緩和するとともに、中学生に本校の魅力を積極的に発信するため、ホームページの充実を図る</li> <li>・海洋だより等を充実させ、中学3年生対象の学校説明会の参加者増加を図る。</li> </ul>	D	D		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度670,999（3月3日） 本年度642,204（3月2日現在）</li> <li>各担当で更新の回数に大きく差があった。 更新回数0～303回</li> <li>・本年度延べ321名 （第1回179名 第2回79名 第3回63名） 昨年度延べ234名 （第1回134名 第2回57名 第3回51名）</li> </ul>
	府立高校丹後ブロックの人権教育をリードするとともに、校内の道德教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育担当として、次の5項目を掲げる。 ①人権教育計画の改訂、②人権学習・講演の内容充実、 ③常任委員任務遂行、④文化委員会の活性化、⑤道德教育取組まとめ</li> </ul>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・①全体計画の改訂を行った。②コロナ禍で工夫しながら実施した。③任務遂行に加え、各研究会にも積極的に参加した。④舞鶴市の人権標語に応募できた。（舞鶴市在住の文化委員）⑤道德教育取組まとめについては、年度末に実施。</li> </ul>

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
教務部	新型コロナウイルス感染症に対する具体的な対応策を示し、生徒の適切な進級・卒業につなげる。また対策案は、働き方改革と新学習指導要領の推進を考慮したものとする。	・ 学期内の休校措置等、状況に応じた対応策を想定し、各科目の履修内容の精選や履修順序の変更等を考慮した年間学習指導計画、指導シラバスの編成を行う。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症対策において、適切な想定に基づき年度当初に履修に係わる先進的な具体的な対策（年間学習計画における対応等）を講じることができた。</li> <li>・ 2学期中旬に教職員向けアンケート調査を実施し、履修状況等を明らかにして学習保障に対応した。（計画・ほぼ計画どおりが86%）</li> </ul>
		・ 家庭学習における課題設定と生徒への指示、適切な評価につなげる単元テスト等の推進や新しい観点別評価への対応等、具体的な内容を検討・実践する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期中旬に教職員向けアンケート調査を実施し、対応状況や本校における課題等を明らかにして対策を呼びかけた。</li> <li>・ 臨時休業中の課題設定、休業明けの単元テスト等適切に運用するとともに、単元評価の定着を促せた。</li> <li>・ 観点別評価については12月2回研修会を実施し（参加率88%）、次年度の試行につなげることができた。</li> </ul>
		・ 現状を分析しながら、全校生徒に対して読書に向かわせる取組（読書週間等）を推進し、読書習慣を定着させる。（継続）	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3/3現在2,171冊(8.4冊/人)で、臨時休業等により貸出数は落ち込んでいる。（令和2年3月末3349冊:11.9冊/人）</li> <li>・ 新規に面談週間に読書週間を併設し、新規企画（読書メータ）も取り扱い、コロナ禍において読書活動を推進することができた。</li> </ul>
生徒指導部	3つのS（直ぐに、素直に、正直に）をモットーとする、生徒と教職員の信頼関係を構築し、その基盤の上に人権意識と規範意識を高めるシティズンシップ教育を推進する。	・ 基本的な生活習慣の確立と学校生活における学習習慣の定着を図るため、下宿巡回及び授業中の巡回指導等を行い、生徒指導に関わる指導件数の減少に努める。	C	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事情を尋ねた生徒は令和元年度より減少し、特別指導件数も減少した。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の休業措置が大きく影響しているものと考えられる。</li> </ul>
		・ 下宿生に対する日常生活の基盤を安定させるため、下宿生にアンケートを実施し、その結果を踏まえ個別面談等を行い、下宿生活の安定に努める。	D	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期に下宿アンケートを実施し、個別に面談を重ねている。</li> </ul>
進路指導部	学年部を始め関係分掌と連携し、進路実現に向けての統一した指導を実践し、主体的な希望進路を実現させる。	・ 進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初の遅れを、学年・分掌及び学科・コースとの連携で取り戻し、3年生1人1人の第1志望に86%の合格・内定を得た。（卒業後の進路決定率100% 2/24現在）また、オンラインを活用した進路行事を校外の団体からの協力を得て実施した。</li> </ul>

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
保健部	学校生活を安心安全に送ることができるよう必要な感染症予防対策を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌と協力し、日々の生活の中での感染症予防対策の徹底を図る。</li> <li>検温の記録や体調等の情報収集を適切に行い、生徒の健康状態の把握に努める。</li> </ul>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内における対応策を作成し、各分掌に協力していただき、感染症予防対策に取り組むことができた。健康チェックシートの管理を行い生徒の健康状態の把握に努めた。</li> </ul>
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い、各分掌と連携を密にして組織的な支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年部、S Cと連携し個別の支援計画の作成を行い、校内にて共有できる体制を整える。（1学期に1名以上を目標とする。）</li> </ul>	D	D	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の影響で計画していた巡回相談が延期になるなど、当初予定していた支援計画等の作成は十分にできなかった。次年度も引き続き取り組みたい。</li> </ul>
	事務部と連携し校内点検を行い、改善が必要な個所の早期発見に努め、学校の環境衛生の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務部と連携し、定期的な校内点検を行う。（月1回を目標とする。）</li> </ul>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回をベースに施設点検を実施し、当初予定していた点検箇所はすべて点検を終え、指摘された部分の改善を図ることができた。</li> </ul>
事務部	本校の魅力ある教育活動、質の高い教育をより多くの方々に知っていただくように努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある教育活動・専門教育の魅力を発信する総務企画部等との連携支援を図り、より充実した広報活動につなげる。 財政支援：投資効率と労働時間バランスを考慮しながら予算化を行う 企画支援：行政的視点を生かし広報取り組みの支援を行う 実動支援：広報物封入作業の他、実習の金銭業務や教育活動の撮</li> </ul>	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政支援や実動支援は、広報物の企画制作や販売実習におけるキャッシュレス決済の導入など多岐にわたり取り組むことができた。</li> <li>ICT活用支援において、情報処理室の機器更新や新たにタブレット端末整備などが実施できた。今後、整備後のトラブル対応などの保守、新たな機器の使用研修企画などサポート力が課題である。</li> </ul>
	より安心・安全な教育環境の維持・整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府における施設設備の長寿命化政策をふまえ、本校においても現在の機能を維持できるよう保守を行う。また、時の流れとともに変化する施設設備の需要の変化に対応できるよう整備を行う。</li> </ul>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>養護教諭や実習助手を始めとする教育職の協力も得ながら、さまざまな視点からの点検を平均月4回以上実施し、安全管理対策を講ずることができた。</li> <li>施設設備の導入や更新については、今後、国や府の施策とリンクした視点での取組に力を入れる。</li> </ul>
みずなぎ	全ての航海実習を通して安全・安心を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。</li> </ul>		C		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実習回数が減少しているが、救急コール携帯の徹底をしている。</li> <li>乗船実習が少なく操練実施回数が少なくなった。</li> </ul>
	組織・運営と連携し、小中学校の体験航海の増大を図ると共に一般団体の体験航海も受け入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織・運営と打合せをし、年間の体験航海を増大させる。</li> </ul>		D	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、小学生の体験乗船が減少したが、乗船した生徒は満足していた。</li> </ul>
	航海船舶コース・学校外機関と連携しアカムツの改良網について研究を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習担当教員と連携を深め、知識や技術の向上に努める。</li> </ul>		C		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で底引き実習が少なくなったが、適切にアカムツ網データを水産事務所に提供できた。</li> </ul>

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
寮務部	保護者や地域の方々の御理解や安心につながられるよう、寮生活の様子をHPにて定期的に発信する。	・月3回を目標にホームページの発信を行う。(年30回の更新を目標とする。)	D	D	D	・ホームページの発信は、5月の学校再開後、6月3回、7月3回、9月2回、11月4回、12月2回の計14回であり、目標の月3回の更新を達成できなかった。
	寮生活において日課や規則をしっかりと意識をさせた生活の指導を徹底し、順法精神を育む。	・寮内反省会などでの啓発をしっかりと行い、反省文提出者の減少を目指す。(年50件以下を目標とする。)	D	D		・今年度の反省文の提出件数は62件であり目標を達成することはできなかった。今後も寮生同士の声掛けや、反省会などを通して、更に少なくしていけるように取り組みたい。
第1学年部	教科・分掌等と連携を図り、学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。	・学力向上の取り組みを行い、成績上位者数の増加を目指す。	C	C	B	・1学期18名・2学期15名・学年末17名(22.3%) 2学期に減少した。大きな要因として、家庭学習が定着していないことが考えられる。今後の課題である。
	希望進路の実現を目指す上で、学力向上とキャリアアップを図る。	・進路実現に向けてのキャリアアップとして、資格取得を促進させる。	B	B		・1組2.9 2組2.9 3組3.2 1人平均3.0。資格取得に対する意識に個人差が出た。2年次以降も積極的に資格取得に挑戦する指導を行いたい。 ※今後、資格取得数が増える予定。
	日々の学校生活を大切に過ごし、基本的な生活習慣の確立を目指し、適切に行動できる生徒を育てる。	・授業規律報告用紙による指導件数を0件にする。	B	B		・授業規律報告用紙による指導を3件行った。分掌や教科、家庭と連携して効果的な指導が行えた。しかし、実際は授業中の態度、提出物等でもっと多くの生徒を指導しなければならなかったと考えている。引き続き授業規律報告用紙を活用した指導の御協力をお願いしたい。
	規範意識を高めるとともに人を尊重する心を育て、良好な学校生活が過ごせるように努める。	・学年独自で人権に関する取り組みを実施する。	B	B		・学年集会やLHRの時間を利用して訓話やアンケートを5回実施した。多様な生徒が多く、その場の雰囲気で行動や言動をする生徒が少なからず在籍するため、今後も状況に応じて取り組みたい。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第2学年部	希望進路の実現に向けて、計画性の向上と知識と技術の充実を図る。	・希望進路の実現を見据え、資格取得を促進させる。	B	B	・2年次10月時点における資格・検定の平均取得数は5.9個であった。例年とは異なる不規則な学校生活の中でも、多くの生徒が知識や技能の向上に努めることができた。しかし、取得、挑戦している個数が生徒によって大きく異なるため、今後も学ぶ意欲の啓発に取り組む必要がある。
	自己理解と進路についての理解を深め、将来に対する見通しを持たせる。	・希望進路を具体化するとともに、進路実現に必要な資質の能力について理解させる。	B	B	・関係分掌と連携して、職業適性検査や面接練習を行い、自己理解や他者理解を深めることができた。学校での学習活動が制限される中でも、オンライン機能を活用した企業説明会を実施するなどして、職業理解を深めた。 引き続き、希望進路をより具体化できるように取り組んでいく。
	日常的な習慣の中で、自律性を高め、他者と円滑に共同できる資質を身に付ける。	・面接試験や社会に通用する身なりやマナーを身に付けさせる。	B	B	・休業措置等に伴う変則的な学校生活を経験したが、生活を乱すことなく過ごすことで、自律性を高めることができた。あいさつや計画的な行動力など、社会人として必要な資質や能力を定着、向上できるように、引き続き指導を行う。
	生徒の特性や課題を把握し、学習指導や進路指導等を充実させる。	・個に応じた指導を充実させる。	C	C	・進路や学校生活に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生徒の心情を把握することに努めた。 家庭訪問や学校での三者面談を実施しづらい状況であるが、よりよい進路を選択して実現できるように、保護者面談も更に進めていきたい。
第3学年部	学力向上と卒業後に必要な学力や知識の定着に向け、学習を継続する姿勢を身に付けさせる。	・年間を通して、授業・家庭学習等の学習に向かう姿勢を向上させる。	C	B	・学年末7.3 進路決定後の低下を防ぐために、学年部での学習啓発活動に努めた。
	希望進路の実現に向け、自ら進路を切り開くようサポートし、進路先でも主体的にキャリアアップを図る力を身に付けさせる。	・関係分掌・学科・コース等と連携を深め、希望進路を実現させる。	C	B	・第一希望合格者79人/93人85.0% 進路指導部、学科・コース、進学担当の先生方のサポートで希望進路実現に繋がった。
	学校生活を通して、社会人として必要な資質や主体性を身に付けさせる。	・生徒会や委員会活動等を活用し、生徒間の規範意識の向上を図	D	D	・1学期課題テスト1人。期末考査0人。2学期始業式12人。中間・期末考査0人、3学期始業式9人、合計22人。 期末考査前は、生徒会が取組を進め、指導人数0となったが、長期休業明けの意識を高めることができなかった。
	さまざまな教育活動を通して自己有用感や人権意識を向上させ、心の育成を図る。	・生徒会・委員会活動やHR活動を通して、主体的に人権意識を育む機会を積極的に設ける。	D	D	・7月1日と10日の学年集会にて、人権意識向上について講話をした。その他は、人権に関する取組は、進められなかった。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
海洋科学科	<p>日常の授業・実習を通して、思考力や表現力、自己有用感や主体性を育むことで、希望進路実現に向かって自ら歩む力を身に付けさせる。</p>	<p>・進路面談、面接練習等を通して、きめ細かい進路指導を実施す</p>	D	A	A	<p>・面談を132回、進路関係面談等を64回実施した（平均4.5回）。早期からの生徒理解のため、1年生の海洋科学科選択者にも面談を実施したい。</p>
		<p>・第3学年において、希望進路を実現させる。</p>	B	B		<p>・第1希望合格・内定率は80.1%、内訳は国立四大3、私立四大9、国公立短・専4、公務員1であった。また、水産・海洋系の進路先は61.9%であった。</p>
	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止及び令和4年度新学習指導要領全面実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の在り方について、研修を深める。</p>	<p>・2年「キャリアチャレンジⅡ（総合的な探究の時間）」の運用方法を検討する。</p>	C	A		<p>・課題研究の分割履修を見据え、2・3年の合同実習を12回、授業時間外での合同取組は4回実施できた。研究活動の引継ぎでは、放課後や週休日に自主的に取り組む姿勢を育むことができた。</p>
航海船舶コース	<p>専門性の高い資格・検定を取得・合格させ、関連性の高い進路先で活躍できる人材を育てる。</p>	<p>・放課後や長期休業中の補習を充実させる。          &lt;コース数値目標&gt;          海技士・三級5名・四級5名、第二級海上特殊無線技士15名、小型船舶操縦士二級16名、一級8名、漁業技術検定19名</p>	B	B	B	<p>・コロナ禍での対応となったが、担当者がそれぞれベストを尽くしている。          &lt;コース内の合格者数等&gt;          三級海技士・・・1名（3年生）          四級海技士・・・5名（うち2年生3名）          二海特無線・・・17名（うち2年生14名）          二級小船・・・7名（うち2年生6名）          一級小船・・・11名（3年生のみ）          漁業検定・・・18名（2年生のみ）</p>
海洋技術コース	<p>マリンエンジニアに関わる専門性の高い教科指導等により、将来のスペシャリストを目指す。</p>	<p>・国家試験潜水士合格率を高めるとともに、潜水技術検定1級の取得を推進し、昨年度に迫る実績を残す。          ○ 潜水士合格率について</p>	B	B	A	<p>・昨年度からの継続的な指導により、3年生の94%が潜水士の国家試験に合格し、2年生は95%の合格率であった。</p>
		<p>○ 潜水技術検定1級取得者数について</p>	A			<p>・3年生17名全員が潜水技術検定1級受検を希望し、継続的な学科と実技の指導を経て全員が検定に合格した。来年度も受検者数を募り、取得者数を増大させたい。</p>
	<p>校外における連携強化により、特色ある実習製品のブランド価値向上とエコサイクルの確立を目指す。</p>	<p>・ヒトデ・ウニ堆肥の連携生産の機会と販売量を増やし、エコサイクルを促進する。          ○ 新規の堆肥パッケージ数</p> <p>○ 堆肥製造や活用等の連携回数</p>	A	A	B	<p>・堆肥を通じたエコサイクルを推進するため、堆肥重量を増量、パッケージを3種類とした。販売実績では、増量した袋の販売数が伸びていることから、今後もエコサイクルがさらなる広がりを見せるよう活動を進めたい。</p> <p>・養老沿岸でのウニ駆除や宮津湾トリガイ漁、地元農家への肥料提供、幼稚園との野菜作付け、花いっぱい運動等、連携回数は13回以上となった。今後も連携や協同を継続し、地域に根ざした教育活動を進めたい。</p>

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
	企業見学や業務体験、講演等により生徒の専門性や進路意識の向上を図り、希望進路の実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋技術コースに関連する企業見学や業務体験、講演等を生徒対象に実施し、コースに関わる進路指導へと繋げるとともに、教員研修の機会を増やすことで、指導力の向上に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業見学や業務体験、講演等の実施回数について</li> </ul> </li> </ul>	C		<ul style="list-style-type: none"> <li>新日本海フェリーのプロペラ研磨作業見学と潜水業務に関わる講演、校外での土木実習体験を実施した。その他はコロナ対応に関わり実現できなかったが、今後はICT機器活用等を含め、実施回数の増大を目指す。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関連進路先の内定・合格率について</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の65%が、海洋土木や建築、潜水等、海洋工学に関する進路先の合格や内定を果たした。今後、2年生の面談等により、関連進路達成率の向上を目指している。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修・資格講習受講回数について</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>潜水による稚貝放流や藻場調査、実習船の運航や機関整備、自由研磨砥石に関わる特別教育、KYT（安全管理）、ドローン講習等を10回実施、受講した。今後も講習や研修を進め、指導力の向上を図りたい。</li> </ul>
栽培環境コース	水産増養殖に関する高い専門性を教授し、確かな力を身に付けさせるとともに水産業の現場で活躍できる人財を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な学習の成果である資格取得に可能な限りチャレンジさせ、1つでも多く取得させることで、卒業時の教育長表彰受賞に努める。</li> </ul>	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース生徒平均資格取得数2.0個/人</li> </ul>
	個別相談や他分掌との連携を図りながら適切なアドバイスを行い、希望進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する個人面談をコースとして実施し、適切なアドバイスを行いながら個々の希望進路実現につなげる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>21名中20名が第1希望進路先合格。合格内定率95%</li> </ul>
	地元自治体や外部機関、研究機関等と連携しながら、生徒の研究活動の深化を図るとともに地域創生につながる教育活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の知的好奇心を高めながら研究活動を深化させ、地域創生につながる取組を実施する。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>①NTTドコモの実証実験、②京丹後市農家との廃棄野菜を利用したウニ養殖試験、③久美浜温泉とのトラフグ養殖連携、④地域おこし協力隊とのホンモロコ養殖連携、⑤高島屋との生産魚販売PR活動、⑥京都大学との研究活動アドバイス及び講義、⑦鯨類調査に係る研究機関、研究者との情報共有、計7件</li> </ul>



分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
食品経済 コース	コンテストや外部イベント等での入賞を目指し、生徒募集につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に本校の魅力を積極的に発信する。</li> <li>・1年生に本コースの魅力を積極的に発信する。</li> </ul>	A A B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期志願者数101人</li> <li>・水産海洋基礎（実習）の授業において、本コースの進路状況や外部連携等の魅力を1年生に伝えるとともに、ホームページや学校だよりを活用し、保護者の理解促進に務めた。（令和3年度2年生14名予定）</li> </ul>
	関係諸機関や他分掌との連携を推進し、落ち着いた学習環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各実習におけるレポート提出の添削を徹底する。</li> <li>・教員によるログノートの点検を励行する。</li> </ul>	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習ごとに必ずレポートを作成させ、教員が二重チェックを行った。生徒の感想から次の実習に繋げることができたことに加え、生徒状況を学年部と連携することができた。</li> <li>・実習ごとにログノートに記載させ、内容を点検した。また、イベント等のミーティングでも活用し、計画的な学習を推奨した。</li> </ul>
	コース内での連携を十分に行い、チームとして希望進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース会議を励行し、定期的に研修会を実施する。 4回            3回            2回            1回</li> <li>・京都府内関連企業への就職を推進する。</li> </ul>	A A D D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習船「かいよう」操船研修</li> <li>・zoomに関する研修</li> <li>・teamsに関する研修</li> <li>・フレンチ調理研修（神田正幸シェフ）</li> <li>・心理学に関する研修（京都工業繊維大学）</li> <li>・缶詰に関する研修（東洋食品工業短期大学）</li> <li>・17名中11名が就職したが、うち3名が京都府外関連企業、2名が京都府内非関連企業となった。（54.5%）</li> </ul>
国語科	基礎学力の定着と国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の基礎力向上のため、以下の4つの項目を達成できるように努める。</li> <li>・学びの基礎診断での偏差値60以上の生徒数を1年生で20人、2年生で30人以上を目指し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・漢字テストと語彙力テストを組み合わせた小テストを継続して行い、語彙力の定着を目指す。</li> <li>・年間を通じて、漢字検定3級以上の合格者数25人以上を目指す。大学入学共通試験の古典分野における平均点5割以上を目指し、古典の知識の定着を図る。</li> </ul>	D D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全3回の漢字検定に合格した生徒は14名という結果であった。</li> <li>・小テストを継続して取り組んでおり、また定期考査でも語彙力を高める問題を取り上げている。</li> <li>・模試の結果から、漢字の知識は身に付いていることがわかるが、慣用語やことわざ、四字熟語の知識には課題が残る。</li> </ul>

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
地歴・公民科	<p>新学習指導要領が重視する学力観に基づき、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養できるようにする。また、観点別学習状況の評価を充実させ、全ての生徒に確かな学力を身に付けさせるとともに、地歴・公民科に対する関心、意欲、態度を醸成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース時事能力検定準2級において、昨年度の合格者、合格率を上回る実績を残す。</li> </ul>	D	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の休業措置の影響で、第1回のニュース時事能力検定が中止された。また、第4回の検定試験も前期選抜と新型コロナウイルス感染症対策の影響のため中止し、昨年度より受験者が大幅に減少したため合格者総数は減少した。一方、準2級は10名が受験し、うち合格者4名となり、合格率は40%に達した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごと的小テストを実施し、学力定着に取り組む。</li> </ul>				C
数 学	<p>観点別評価に重点を置き、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの実践により、授業満足度を高める工夫に努める。</li> </ul>	C	C	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの結果、もう少し満足度を上げていきたいと考えている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な発表授業を実践し、生徒自身の自発性を高める。</li> </ul>				D
数 学	<p>数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。また、検定合格に向けた学習を通して、苦手分野を克服すると共に、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。</p>	<p>以下の3項目の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学検定準2級以上の受検生徒数：40名（前年度29名）</li> <li>・数学検定準2級の合格率：40%（前年度30.4%）</li> <li>・数学検定の新規合格者数：15名（前年度6名）</li> </ul>	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の数学検定の受検者数は合計55名であり、そのうち準2級以上の受検者数は31名であった。また、合格者については、準2級の合格率が35.7%（10名/28名中）であり、数学検定の新規合格者は17名である。前年度よりも受検者数・合格者数・合格率が向上したものの、目標に届いている項目は1項目だけである。次年度に向けて受検者数・合格者数が増加するよう方策を考えていきたい。</li> </ul>
		<p>以下の4項目の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を対象の授業評価において、「満足度」の平均：3.8（4段階）</li> <li>・授業改善のための教科会議の実施回数：6回</li> <li>・単元テストの実施回数：6回</li> <li>・数学科の授業参観の回数：1人当たり3回</li> </ul> <p>希望進路実現に向けて確かな学力を身に付けさせるため、授業力向上に取り組む。</p>				C
理 科	<p>理科に対する学習の姿勢を向上させ論理的な思考ができる生徒の育成のために、授業力向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を対象とした授業アンケートで、各科目で満足度を3.8以上</li> <li>・大学入試共通テストで、各科目の得点率70%以上の生徒を1名以上</li> <li>・公開授業週間などを含め、他の先生方の授業参観を10回以上</li> <li>・電子黒板を活用した授業を各科目で年間10回以上使用</li> <li>・自分の授業力向上を図るために、外部研修に3回以上参加</li> <li>・生徒実験や演示実験の回数を昨年より30%増加（昨年度生徒実験9回）</li> </ul>	D	D	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（1学期の結果より）化学基礎など達成できた科目もあったが、すべての科目で満足度3.8以上を達成することはできなかった。外部研修や生徒実験に関しては、コロナ感染症の影響もあり達成できていない。リモート研修や、教師のみが行う演示実験の充実を図るようにしていきたい。電子黒板に関してはモニター以外の活用法を模索していく必要がある。</li> </ul>

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
保健体育科	遅い生徒を育成するため、体力の向上を目指す。	・ 15分間走において全体の平均記録9000m（3回計）を目指す。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の15分間走（3回計）の平均は8748m、2学期の平均は9269mであり、平均すると9008mとなり目標の9000mを達成することができた。引き続き生徒の体力の向上に努めたい。</li> <li>・ 今年度の違反件数合計は420件であり、1人当たりの指導件数は1.60件であった。</li> </ul>
	授業時におけるあいさつや服装身だしなみを徹底することにより、順法精神を培い社会性の向上を目指す。	・ 授業開始時の服装点検違反の件数を1人あたり1.5件以下とし、延べ件数で390件以下を目指す。				
英語科	生徒の学習意欲を高め、学習習慣を身に付けさせるとともに、4技能5領域を含む英語の基礎力を定着させる。	・ 単語集を利用した小テストや課題提出等の計画的な学習指導により、学習習慣を身に付けさせ、生徒の学力の向上を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単語集を利用して、定期的に小テストを実施することにより、一定の学習習慣が身に付いた生徒も多数いる。今後その質を高める必要がある。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ペアワークやグループワークの活動に、制約を受けたが、一人一人に考えさせる活動などを入れることにより、主体的な学びができるよう授業展開を工夫した。今後深い学びに結びつけるよう更なる工夫を実践していきたい。</li> <li>・ 1学年全員にスピーキングテストを実施し、2・3年の科学科の生徒には、リテリングやプレゼンテーションに取り組みさせた。特に、本年度新たに、コミュニケーション英語の毎回の授業で、英検のリスニング問題を取り入れた。第1回英検については、コロナの関係で、団体受検は実施できなかったが、第2回・第3回の受検者は、かなり増加している。今後、4技能5領域の育成を目指す取組を更に進めるよう努力したい。</li> </ul>
		・ 「主体的・対話的で深い学び」実現の観点から、ペアワークや対話を通して考える時間を十分に確保し、生徒が興味を持って解決策や答を深めていけるような授業展開を目指す。	C	C		
		・ リスニングやスピーキング指導も適宜取り入れて、英語4技能5領域の育成を目指すと同時に、英語力を把握する指標として、実用英語技能検定やGTECの受験を促し、実用英語技能検定の合格者数の増加を図る。	B	B		
家庭科	生活的自立の能力を形成するために、自ら考え判断できる力と他と共存できる力を育成する。	・ 家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入状況を確認し、学習内容の定着を把握する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わずかながら、プリント記入が不十分な生徒がある。今後、授業時間内に時間を確保する等、徹底を図っていく。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しながら、献立作成、衣生活基礎縫い、住宅設計等の実習を行った。</li> </ul>
		・ 自立に向けての実習をできるだけ多く取り入れ、体験的に学ばせ	B			

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に特色があり充実しており、学校公開も活発に行われている。</li> <li>・親元を離れて入学した生徒に対し、手厚く支援する必要がある。</li> <li>・ホームページ等において、教育活動の発信はできている。加えて、本校で学び地元で活躍している卒業生の様子を、学科・コースごとに紹介し、在校生や中学生へのキャリアモデルとするとともに、企業の方にもイメージしてもらいやすいようにしてはどうか。</li> </ul>			
次年度への改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下宿生徒を中心とする好ましい生活の支援</li> <li>・卒業生の活躍を発信する等、効果的な生徒募集</li> <li>・コミュニティ・スクールの推進と地域創生に資する人材育成</li> <li>・新学指導要領実施に向けたカリキュラム・マネジメント、評価の充実</li> <li>・新しい「京都府教育振興プラン」の推進</li> <li>・アフターコロナを見据えた教育活動の更新と進路保障</li> <li>・ボランティア活動等、コロナ禍以前の特色ある取組の継承</li> </ul>			

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった